



第 131 号
 ISHIKAWA
 編集 発行
 石川県公立小中学校
 教育事務研究会

全国公立小中学校事務研究大会（福井大会）で
 石川県が第5分科会の発表を担当しました

「学校のスタッフとして生き生きと働く！-自由な発想で学校事務をデザインする-」

分科会の流れ

セッション 1



- ・ 石川支部の提案
 石川県の現状と背景
 仕組み①研修体系図、研修テキスト、研修プログラムの開発
 - ②育成指標、NITS 動画教材の活用
 - ③実践ライブラリー、じむ研 tips!
 - ④職務標準表
 - ⑤仮想共同学校事務室



発表者の皆さん おつかれさまでした



- ・ 仕組みについてグループ討議
 【学校改善策を企画し実行するために有効な仕組みづくりとは？】

セッション 2



- ・ 実践をもとにグループでの意見交換
 持ち寄った各自の実践を交流し、
 他者の実践から自らの実践の改善ポイントを探る

参加者は専用掲示板や
 オンラインで事前交流。
 新しい分科会の形でした。

セッション 3



- ・ 野々市市より報告
 共同学校事務室設置の流れ
 課題解決型共同学校事務室での取り組み
- ・ グループで仮想共同学校事務室体験



ふせん持参のグループもありました

藤原先生より総評



- ・ 法改正により事務職員に求められる仕事が決まった今、
 かつてのように、「こんな事務職員になりたい」とか
 「つかさどるって何？」のような研究に注力する必要は
 ないのではないか。
- ・ いまの時代に必要な働き方として、日々の実践の中で
 挑戦して成長していくこと。また、その課題や成果を
 共有することが大切。



オンライン同時開催でした

福井大会の感想をお聞きしました

内灘町立鶴ヶ丘小学校 武田 千草 さん

(参加した分科会：石川)

分科会で、仮想共同学校事務室を体験。リーダーとしての考え方・アドバイス・「どうする？」という問いかけに、メンバーとしてどのように考え進めていくのか。自分の力量形成だけでなく若手の力量形成もおこなっていかねばならない。できるかな？でも、一人ではできないことも、組織だったら出来るかも！苦手なグループ討議が、楽しくて仕方ないものとなりました。

自分のまわりで「学校がよくなった(*^_^*)」そんな声が聞こえるように、環境を整えていこうと思っ
て・・・実践していきます。

加賀市立錦丘東小学校 弓波 鷹 さん

(参加した分科会：石川)

テーマに惹かれ、参加させていただきました。事前にオンライン打合せがあり、各グループで使用できる掲示板で、当日までにお互いの実践例報告や、セッション3の仮想共同学校事務室でグループ協議するテーマを決めたりしました。新しい分科会の形で、自己の働き方を見つめ直す良い機会になりました。後、発表にもありましたが、野々市市で共同学校事務室が設置され、学校集金について課題を提起し、解決していく取組が紹介されました。今後県下他の市町村でも共同実施が導入されていくことも予想される中で、仮に自分が勤める市で共同学校事務室があったら、どの様に有効活用できるかを考える良い機会になりました。

輪島市立河井小学校 正井 翼 さん

(参加した分科会：本部研究会)

今回は、近場の福井県での全国大会開催ということで、せっかくなので参加しました。子どもたちには、多様な人々との協働により社会的変化を乗り越え、自分らしく生きる力を身に付けることが必要とされています。つまり、生涯学習の力を身に付けることで、学校も社会的変化を乗り越えるためには、子どもの教育に係わる人々との協働が必要とされています。変化し続ける教育現場において、学校事務職員も関係者と価値を共有し、協働する力を身に付けなければならないと感じました。

本部研究会では、学校のことや、学校組織開発で事務職員・共同学校事務室ができることをグループで話し合いました。リアルタイムアンケートによる共有などで会場・オンラインで意見を共有できていて、多様な実践を共有できた楽しい時間でした。

社会の変化に対応していけるように、必要とされる力を身に付けるため、学び続けていきたいです。

加賀市立山中小学校 大崎 奈々恵 さん

(参加した分科会：福井)

「意識」×「仕組み」で「協働する組織文化」を創り出そう！

－ポジティブに しなやかに 進化し続ける学校組織へ－

何か新しい取組を始める時に生じる負担感を「意識の壁」と「仕組みの壁」に分けて考えるところがとても印象的でした。私自身も無意識のうちに事務職員と教職員の間に壁を作っている気がします。そのような意識の壁を打破し、事務職員だからこそこできること！という視点を持って、教職員と協働していくことが子どもたちのためになっていくこと。そして、俗人的(=この人だからできること。あの人だからできた。)をなくしていくための“仕組み”を構築していくことが学校全体で協働していくためには必要なことだと感じました。

『教職員と協働』+『事務職員の協働』を目指し、すべては子どもたちのためという大きな目標に向かって、ポジティブに、しなやかに進化し続ける学校事務職員でありたいです。

来年度は令和6年8月9日(金)

本部主管で東京近郊にて開催です



県事務研マスコットキャラクター
イシカワケンジ